

JX日鉱日石エネルギー CSR報告2011



エネルギー・資源・素材の^{みらい}Xを。
JX日鉱日石エネルギー

目次

● 東日本大震災の影響と対応	1
● Eの活動実績	4
● Aの活動実績	8
● Rの活動実績	10
● Tの活動実績	14
● Hの活動実績	15

東日本大震災の影響と対応

当社グループの被災状況

JXエネルギーグループは、東日本大震災により、仙台、鹿島、根岸の3カ所の製油所の生産停止、太平洋沿岸の油槽所およびサービスステーションの被災、そして多くのタンクローリー・タンク車の喪失等、石油製品供給インフラに未曾有の大打撃を受けました。

また、鉄道、道路などの物流網が毀損し、震災後の一時期は、被災地における石油製品の供給が途絶する事態となりました。

主な被災状況

- **仙台製油所**
地震発生直後 全装置緊急運転停止
津波により冠水、多くの設備に被害
西地区の陸上出荷設備で火災発生(3月15日鎮火)
- **鹿島製油所**
地震発生直後 全装置緊急運転停止
構内道路・タンクなどに被害
津波により棧橋や海水ポンプ場などに被害
- **根岸製油所**
地震発生直後 全装置緊急運転停止
製造装置などに小規模な被害
- **川崎製造所**
地震発生直後 全装置運転停止
- **東北支店**
地震直後 ライフラインすべて停止
- **油槽所・ガスターミナル**
太平洋沿岸に位置する油槽所・ガスターミナル14カ所で被害
- **サービスステーション**
東北地方、茨城県、千葉県のSSIに多数の被害
首都圏でも停電や在庫切れにより休業が多数発生

復旧・復興状況

震災発生直後に災害対策本部を立ち上げ、事態の把握と早期の復旧を図りました。緊急を要する被災地、物資運送車両等への供給を最優先としつつ、ガソリンスタンドへの供給の安定化、復旧作業に必要な燃料、さらには不足している電力の確保に向けた火力発電用燃料の供給に、グループをあげて全力で取り組みました。

その結果、2011年4月上旬には、被災地に対して安定的な製品供給を行うことが可能となりました。

また、被災した製油所においても復旧・復興に取り組み、鹿島製油所は6月に生産を再開し、11月にはフル稼働となりました。仙台製油所では、一刻も早い生産再開、災害対応力の向上、新エネルギーの導入のコンセプトのもと、2012年3月末の生産再開に向けて復興計画に取り組んでいます。

緊急供給対応／復旧・復興状況

● 生産体制

- 室蘭・水島・麻里布・大分製油所がフル生産を実施
- 水島製油所 生産能力を2万バレル／日増強(3月21日)
- 根岸製油所 トッパ(常圧蒸留装置)稼動を再開(3月21日)
- 鹿島製油所 生産再開(6月4日)
- 仙台製油所 生産再開予定(2012年3月末)

● 供給体制

- 水島・麻里布・大分製油所から関東地方にタンカーで転送
- 被災した14カ所の油槽所・ガスターミナルのうち、12カ所で仮復旧し、順次出荷再開
- 根岸製油所 東北地方にタンク車(鉄道)で製品を転送
- 大阪製油所 輸出用在庫を国内に振り替えて出荷
- 製品輸入を実施
- 西日本地域や北海道からタンクローリーを投入

● 販売体制

- 東北地方のすべておよび茨城県・千葉県の太平洋沿岸地区のSSの設備復旧に向けた調査および補修を実施
- 在庫切れによるSSの休業解消(4月11日)
- 東北地方のSSの95%にあたる1,138カ所で営業再開(4月14日現在)

被災地支援活動

事業を通じた支援

- 被災地の自治体に燃料油(灯油・軽油)を寄贈
- Tカードと連携し、取扱いのENEOSサービスステーション店頭でTポイントを活用した義援金募金活動の告知に協力
- 「ENEOSカード」による被災地の子どもたちの育成支援
個人向けクレジットカード会員の皆様が「ENEOSカード」を利用された金額の0.01%を、あしなが育英会の「東日本大震災・津波遺児募金」に寄付することとしました。2011年4月のご利用分から対象となりますが、2010年10月～2011年3月分のENEOSサービスステーションでのENEOSカードのご利用金額の一部(約1,260万円)も同様とし、2011年5月に寄付を実施しました。
- 被災したエネファームのお客様に対し、無償で修理を実施

社会貢献活動

● 義援金の寄贈

JXグループを代表して、JXホールディングスおよび中核事業会社3社が日本赤十字社を通じて3億円を寄贈したほか、JXエネルギーグループ各社は被災地の自治体などに義援金を寄贈しました。

● JXグループ復興支援ボランティア活動への参加

JXグループでは、グループ内から広く参加者を募り、被災各地区のボランティアセンターと協力して被災地での復興支援ボランティア活動を展開しています。JXエネルギーグループから延べ120名を超える従業員が参加しました。

● 被災地でのスポーツ教室

復興支援の一環として、被災地でJXバスケットボールクリニックを開催しました(5月:福島、7月:岩手、8・9月:茨城)。また、8月に宮城県で開催された「東北復興野球交流試合・教室」にJX-ENEOS野球部が参加しました。

(参考: JXホールディングスの活動)

● 「童話の花束」を被災地へ寄贈

2011年4月、被災者の方々への支援の一環として、TSUTAYAおよびTポイントを運営するカルチャ・コンビニエンス・クラブ(株)を通じて、「童話の花束(その41)」10,000冊を、宮城県、岩手県の避難所に寄贈しました。

“E”の活動実績(2010年度)

Ethics 高い倫理観

わたしたちは、一人ひとりの高い倫理観のもと、常に誠実に事業活動に取り組めます。

コンプライアンス

関連するGCの原則

原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

遵法状況点検

2010年10月～12月に、JX日鉱日石エネルギーの国内外の全拠点および特定関係会社24社を対象に遵法状況点検を実施しました。

各拠点・関係会社において、グループ単位で所管する業務等に関する問題がないか点検を行い、その結果挙げられた問題点については、対応方針を策定・実行することにより、解決を図ります。

2010年度は、統合初年度であったことから、遵法状況点検と併せて、規程類の整備状況についても点検を行いました。すでに大半の規程類は整備済みであり、制定・改廃を要する規程類については、順次作業を進めています。

海外現地法人へのリーガルサポート

2010年度は、主要な海外現地法人19社を対象にアンケートを実施し、海外現地法人の現地リーガルサポート体制を強化していくに当たっての課題を確認しました。2011年度は、北米・南米の海外現地法人を訪問し、各社のコンプライアンス対応状況の確認・指導を実施します。

ビジネス倫理研修

JXエネルギーグループでは、役員・従業員が「問いかけること」を体得し、倫理的判断力を向上できるよう、ビジネス倫理の専門家の協力のもと、ケース・メソッドという研修手法を導入したプログラムを作成し、ビジネス倫理研修を実施しています。2010年度は、昇格時の階層別研修の機会にビジネス倫理研修を行ったほか、経営理念に基づくCSRに関する研修を含め約50回の研修に延べ約2,300名が参加しました。

人権

関連するGCの原則

原則1: 人権擁護の支持と尊重

原則2: 人権侵害への非加担

JX日鉱日石エネルギーでは、従業員の人権意識の高揚に努めるとともに、「人権尊重によるあらゆる差別の解消」を基本方針に据え、人権啓発を推進しています。また、「人間尊重」の観点からさまざまな施策に取り組んでいます。

具体的には、次世代育成支援行動計画の策定・推進のほか、メンタルヘルス対策の充実、労働時間管理の徹底、時間外労働の削減(“さよなら残業～Action8～”)、短時間勤務制など、働きやすい職場作りをめざして積極的に取り組んでいます。

人権週間の取組み

2010年11月、「人権週間(12月4日～12月10日)」に際し、JX日鉱日石エネルギーおよび関係会社の従業員および家族を対象に「人権標語」を募集しました。一人ひとりが身近なことから人権問題を考える機会として、毎年行っているもので、2010年度は、家族からの332作品を含む3,808作品の応募がありました。従業員の部・優秀賞10作品、佳作73作品、家族の部・優秀賞5作品、佳作29作品を選出・表彰しました。

次世代育成支援

JX日鉱日石エネルギーでは、次世代育成支援対策推進法に基づく第3回行動計画の達成が厚生労働省に認定され、次世代認定マークを取得しました。

● 第3回行動計画実施内容(2009年4月1日～2011年3月31日)

目標1 安心して妊娠・出産に臨める勤務制度および運用の整備

目標2 安心して育児に取り組める勤務制度および運用の整備

目標3 妊娠・出産・育児をあたたく見守る職場環境づくり

「子育て支援ガイドブック」を作成・社内イントラネットに掲載

2010年10月、「出産、育児を控えた社員の方へ～これ一冊でわかる！子育て支援ガイドブック～」を作成し、社内イントラネットに掲載しました。

これは、妊娠・出産・育児に伴い利用できる社内外の制度や必要な手続きなどを紹介するガイドブックです。次世代育成支援や仕事と育児の両立支援の取組みは女性社員に限らず、男性社員も配偶者・父親・上司・同僚などさまざまな立場でその役割を果たすことが期待されています。社員はこの手引きを通じてこれらの仕事と育児の両立支援について理解を深め、いきいきとした働き甲斐のある職場づくりに役立っています。

【データ】

● 育児休業取得者数(男女別)

男性 15名 女性 32名 計 47名

● 男女別従業員数

男性 6,384名 女性 680名 計 7,064名

● 管理職(女性比率)

0.67%

障害者の活躍推進

JX日鉱日石エネルギーは、法定雇用率(1.8%)を上回る2.0%を社内目標として障害者雇用に取り組んでいます。2011年3月31日における障害者雇用率は2.17%です。

労働基準

関連するGCの原則

原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化

原則4: 強制労働の排除

原則5: 児童労働の実効的な排除

原則6: 雇用と職業の差別撤廃

労働組合との対話

JX日鉱日石エネルギーは、労働組合と労働条件改定に関するさまざまな課題について話し合いを行っています。また、次世代育成支援に関する検討会議および労働時間削減に関する検討会議を共催し、活発な意見交換を行っています。

安全の確保

石油製品等の生産から物流・販売に至る全ての工程において、事故・災害の未然防止と発生時の対策に万全を期し、安全操業の継続に努めています。

当社は、「私たちは全ての事業活動において「安全」を最優先します。」を安全理念として掲げ、協力会社従業員の方々も含め一体となって安全諸活動および安全教育に取り組んでいます。

また、設備事故防止の観点から製油所・製造所の業務改革に取り組み、製油所・製造所における事故防止対策を推進しています。

2010年度は、「安全方針」に基づき、事故・労働災害の撲滅を図りました。

● 2010年度グループ安全方針

1. 安全諸活動の確実な実行
2. ルール遵守の徹底
3. 危機管理能力の向上

【データ】

● 労働災害発生件数

	休業	不休	度数率※1	強度率※2
2010年度	1	20	0.112	0.000

※1「度数率」: 100万延べ労働時間当たりの労働災害による死傷者数

度数率 = (労働災害による休業一日以上の死傷者数 / 延べ労働時間数) × 1,000,000

※2「強度率」: 1,000延べ労働時間当たりの労働損失日数。災害の重さの程度を表すもの。

強度率 = (延べ労働損失日数 / 延べ労働時間数) × 1,000

リスクマネジメント

危機管理

JX日鉱日石エネルギーは、国民生活・経済にとって必要不可欠な石油製品等を供給する事業者として、また、広く社会に貢献する事業者として、大規模災害時にも製品の供給を継続し、企業の社会的責任を果たすことを基本方針としています。その責任を果たすために、首都直下型大地震や新型インフルエンザ発生時の事業継続計画(BCP)策定などの総合防災体制の整備を進めています。

2010年度のJXグループ防災週間では、従業員の防災に対する意識の高揚と知識の向上を図るとともに、対策内容の検証・確認を目的とした災害対策本部初動対応訓練等、さまざまな訓練を実施しました。

情報セキュリティ

JX日鉱日石エネルギーの情報セキュリティは、5つの基本方針に則り、会社の資産である会社情報の不正な使用・開示および漏洩を防止するとともに、社内外の不正なアクセスから会社情報を保護することにより、会社情報を完全かつ安全な状態に維持し、許可された利用者が必要なときに会社情報を適切に利用できるようにしています。

個人情報保護に関する方針として「JX日鉱日石エネルギープライバシーポリシー」を制定しています。

“A”の活動実績(2010年度)

Advanced ideas 新しい発想

わたしたちは、常に新しい発想で事業活動に取り組み、エネルギー・資源・素材のみらいを切り拓いていきます。

新エネルギー・新規事業

環境対応マルチエネルギーシステム

JX日鉱日石エネルギーは、さまざまな先端エネルギー機器の組み合わせにより、環境性、経済性、快適性の観点から最適なエネルギーシステムを構築・提案し、その普及を図ることで、低炭素社会の実現に貢献しています。

当社は、横浜市に設置した「ENEOS創エネハウス」において実証試験を行っており、そこで得た知見に基づき、家庭用燃料電池エネファーム、太陽光発電システム、蓄電池等のさまざまな機器を組み合わせた「環境対応マルチエネルギーシステム」を設計しています。

2010年度、岐阜県が推進する複数のエネルギー資源や新たなエネルギー技術のベストミックスによる「次世代エネルギーインフラ構想」において、「クックラひるがの」(商業施設モデル)、「GREENY岐阜」(家庭モデル)、古民家(中山間地モデル)に当社の「環境対応マルチエネルギーシステム」が採用されました。

2010年10月、JX日鉱日石エネルギーは、住宅用エネルギーモニター「エネウインドウ」の販売を開始しました。「エネウインドウ」は、太陽光発電システムとエネファームの発電量や消費電力量等のデータを収集・蓄積し、エネルギー収支や節電目標達成状況を確認できるシステムです。エネルギーを「見える化」することで、家庭における節電等の省エネ行動の促進にもつながります。

太陽光発電

JX日鉱日石エネルギーは、総合エネルギー企業として、環境に優しいエネルギーシステムの普及を通じ、低炭素社会の実現に貢献することを目的に太陽光発電システムの販売に力を入れています。

システムの販売から施工まで、お客様に安心してお任せいただけるように、2010年6月、当社川崎事業所内に「太陽光発電施工研修所」を開所し、当社の太陽光発電システム販売を担う特約店や施工会社、当社社員等を対象に模擬屋根での実習を中心とした当社独自の研修プログラムを開始しました。

2010年10月には、「ENEOS マンション向け戸別太陽光発電システム」の全国販売を開始しました。本システムは、当社が開発したパワーコンディショナを用いることで、マンション各戸ごとに太陽電池モジュールが割り当てられるので、新築・既築、規模を問わず、幅広い物件に対応可能となります。戸建ユーザーと同様に、マンションユーザーも太陽光発電による余剰電力の10年固定価格買取制度を利用することが可能となり、各家庭において電力を節約した分のメリットを享受することができます。

水素エネルギー社会への取組み

JX日鉱日石エネルギーでは、横浜・旭水素ステーション、北九州水素ステーションに加え、水素供給・利用技術研究組合(HySUT)からの委託で2010年12月に設置した東京・杉並水素ステーションの3つを運用しています。なお、JHFC船橋水素ステーション(移動式)は、2010年12月末で運用を終了しました。

2011年1月13日、JX日鉱日石エネルギーは、自動車メーカー3社とエネルギー関連会社9社と共同で、燃料電池自動車(以下、FCV)の国内市場導入と水素供給インフラ整備に関する共同声明を発表しました。自動車メーカーは強力なコストダウンを進め、FCV量産車を2015年に4大都市圏を中心とした国内市場への導入を目指し、水素供給事業者は、2015年までに100カ所程度の水素ステーションの建設を行う、というものです。

2015年からの燃料電池自動車普及に向けた水素供給インフラ整備の施策の一つとして、当社では、既存のサービスステーションに水素ステーションを併設した「マルチステーション」を提案しています。マルチステーションでは、ガソリン、軽油、水素、電気などのあらゆる自動車燃料を供給します。太陽光発電システムで発電された電気を電気自動車に急速充電したり、植物から生産されるバイオETBEを混合したバイオガソリンの供給も行います。自動車用燃料だけでなく、製油所から受け入れた水素を地域内の家庭用・業務用燃料電池にも供給します。さらに、地域で余剰となった再生可能電力を受け入れ、電気自動車に利用するなどの需給調整も行ないます。

当社は、今後も水素供給事業の基盤確立に努めるとともに、家庭用燃料電池の普及推進などにより、水素エネルギーによる持続可能な低炭素社会の実現に貢献してまいります。

“R”の活動実績(2010年度)

Relationship with society 社会との共生

わたしたちは、ひとりの市民として、社会貢献活動を積極的に推進し、社会と共に成長していきます。

社会貢献活動方針

JXエネルギーグループは、「JXグループ行動指針のひとつである「社会との共生」、「地球環境との調和」を実現するため、積極的に社会貢献活動を推進し、持続可能な社会の発展に貢献します」との社会貢献活動方針のもと、2010年度は、(1)旧両会社で実施してきた社会貢献活動の着実な実行、(2)JXエネルギーとしてふさわしい社会貢献活動の策定、(3)JX童話賞(HDから運営受託)の体制整備を重点テーマに、さまざまな活動を行いました。

スポーツ・文化の振興

JX日鉱日石エネルギーでは、「JX-ENEOS野球部」と女子バスケットボールチーム「JXサンフラワーズ」を運営しています。

JX-ENEOS野球部

野球に関する支援として、JX-ENEOS野球部員やOBによる少年野球教室を開催するほか、「全国スポーツ少年団軟式野球交流大会」、「NPB12球団ジュニアトーナメントENEOS CUP」などに協賛しています。また、2010年11月に神戸で開催された「第2回世界身体障害者野球日本大会」に特別協賛しました。

JXサンフラワーズ

バスケットボールの振興と地域との交流を図るため、JXサンフラワーズの現役選手や、オリンピックなどで活躍した元選手中心の専任チームが全国各地を訪れ、子どもたちにバスケットボールの基礎技術を指導する「JXバスケットボールクリニック」を行っています。2010年度は43回実施し、延べ1,480名が参加しました。

車椅子バスケットボール大会支援

JX日鉱日石エネルギーは、車椅子バスケットボールの振興にも寄与しています。2010年度は、「日本車椅子バスケットボール選手権大会」(5月)、「全国ジュニア選抜車椅子バスケットボール大会」(7月)、「全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会」(11月)、「全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会」(11月)、「車椅子バスケットボールクリニック」(11月・山口)に協賛しました。また、日本車椅子バスケットボール選手権大会(5月)および車椅子バスケットボール秋季大会(未協賛、10月)には、従業員がボランティアで参加し、大会の運営に協力しました。

障害者スポーツ応援クリック募金

JX日鉱日石エネルギーは、2010年3月から2011年7月の間、「障害者スポーツ応援クリック募金」の第8弾として、「スペシャルオリンピックス(SO)」を応援するためのクリック募金を実施しました。

実施期間：2010年3月～2011年7月

寄付先：NPO法人スペシャルオリンピックス日本

寄付金額：6,032,630円(1クリック=1円)

※2004年に開始した障害者スポーツを応援する「クリック募金」は、2011年7月で終了しました。この間、世界を目指してがんばっている障害者スポーツ選手・団体に32,931,549円を寄付しました。

現在は、豊かな森の生物多様性を守る活動を支援する「クリック募金」を実施しています。

詳細につきましては、障害者スポーツ応援クリック募金をご参照ください。

<http://www.no.e.jx-group.co.jp/csr/click/disclosure/results.html>

JX童話賞

JXホールディングスが主催するJX童話賞は、「心のふれあい」をテーマに一般の方から創作童話を募集し、優秀作品を表彰するコンテストです。2010年度で、41回目の開催となりました。「一般の部」、「中学生の部」、「小学生以下の部」の3部門を設け、子どもから大人まで、童話創作の機会を提供するとともに、優秀作品を作品集「童話の花束」にまとめ、広く一般に配布しています。また、東京善意銀行やその他の社会福祉団体を通じて、「童話の花束」を全国の福祉施設、母子家庭および里親家庭に寄贈しています。

次世代育成・支援

JX童話基金

JXホールディングスでは、ENEOSのサービスステーションを運営する特約店やJXグループ各社・従業員などが購入した「童話の花束」の売上金を全て「JX童話基金」に組み入れ、社会福祉法人全国社会福祉協議会(全社協)に寄付しています。この寄付金は全社協が設立した「JX奨学助成制度」により、児童養護施設、母子生活支援施設および里親家庭の子どもたちが高校卒業後に進学する際の自立支援のために活用されます。

なお、2011年度から当面の間、東日本大震災によって被災された子どもたちへの支援にも役立てられる予定です。

ENEOSわくわく環境教室(出張授業)

JXエネルギーグループ従業員が講師となって小学校等を訪問し、「石油と私たちの暮らしとの関係」「石油製品の作り方」「地球温暖化の現状」「環境にやさしい新エネルギー」などのテーマについて、クイズや実験、本物の原油の観察などを行いながら、わかりやすく解説しています。2010年度は全国41校で開催し、約2,400名の子どもたちが受講しました。

「水素と二酸化炭素を比較する実験」や「燃料電池の発電実験」では、毎回、大きな歓声が上がリ、「環境・エネルギー」について、楽しく学んでいただいています。

ENEOS森のわくわく学校

JX日鉱日石エネルギーでは、小学生を対象とした1泊2日の環境・エネルギー研修プログラム「ENEOS森のわくわく学校」を、2007年度から実施しています。清里の森を守る活動をしている財団法人キープ協会の指導・協力のもと、森の探検、秘密基地づくり、森の木々や葉っぱを使った遊びや火おこしなど自然の中での五感を使った体験を通じて、子どもたちに自然とエネルギーの大切さを体感してもらうことを目的とした体験プログラムです。2010年度は7月と8月の2回実施し、小学生と保護者29組58名が参加しました。

なつやすみ科学バスツアー

JX日鉱日石エネルギーの製油所では、各地の新聞社とタイアップして「なつやすみ科学バスツアー」を実施しています。楽しみながらエネルギーと日々の暮らしの関わりを学んでもらうことで、次世代を担う子どもたちの環境意識の向上に貢献しています。2010年度は7カ所で実施し、555名の子どもと保護者が参加しました。

環境保全

「ENEOSの森」

地方自治体または(社)国土緑化推進機構とパートナーシップを結び、一定エリアの未整備な森林の保全を支援する活動のフィールドとして、「ENEOSの森」とネーミングした支援エリアが、北海道、宮城県、神奈川県、長野県、奈良県、岡山県(2カ所)、山口県、大分県の9カ所にあります。

これらの「ENEOSの森」では、各地域で森林保全専門に活躍するNPO等の団体を活動の先生として、当社グループ従業員やその家族などが、植樹、間伐、下草刈り等の森林保全を実施するほか、自然観察や鳥の巣箱かけ、森の恵みのささやかな収穫など、自然に親しむ活動を行っています。

2010年度は、9カ所で計18回の活動を実施し、従業員とその家族ら延べ1,482名が参加しました。

東京グリーンシップアクション

JX日鉱日石エネルギーは、都内に残された貴重な自然を守るために、東京都と民間企業、NPOなどが連携して行う環境保護活動「東京グリーンシップ・アクション」に2004年度から参加しています。東京都町田市の函師小野路歴史環境保全地域において、町田歴環管理組合の指導の下、従業員やその家族が、昔ながらの農法で荒れた田んぼを復元させる里山保全活動に取り組んでいます。2010年度は8回の活動を行い、延べ220名が参加しました。

日比谷公園花壇整備

緑多い都市の公園の中で、訪れる人々が癒されるような花壇作りを目指し、季節に合った花の植替え作業を行いました。年間を通して種まき、剪定などの園芸基礎講座も実施しました。2010年度は5回実施し、従業員とその家族ら延べ92名が参加しました。

「コウノトリ野生復帰」事業支援活動と「ENEOSわくわく生き物学校」

JX日鉱日石エネルギーでは、2006年から、多様な生き物を復活させる取り組みを実施している、兵庫県豊岡市の「コウノトリ野生復帰」事業を支援しています。

2009年度からは、関西エリアの子ども達を対象に、コウノトリ保護をテーマとした生物多様性保全の体験学習「ENEOSわくわく生き物学校」を開催しています。2010年度は、7月に実施し、小学生と保護者約20名が参加しました。2011年度は1泊2日のプログラムとして開催し、より高い学習効果を得られる企画とすることにしています。

ENEOSカードによる(社)国土緑化推進機構への寄付

ENEOSカードの発行を開始した2001年10月より、お客様がENEOSサービスステーションで同カードをご利用になった金額の0.01%相当額を(社)国土緑化推進機構に寄付し、国内外における環境活動の支援に役立てています。2011年3月までの寄付は累計で1億7,800万円を超えています。

公益信託ENEOS水素基金

JX日鉱日石エネルギーは、独創的かつ先導的な基礎研究への助成を通じて、水素エネルギー社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月に本基金を設立しました。

本基金は、水素エネルギー供給に関する研究助成に特化したわが国初の公益信託で、年間総額5千万円(1件あたり最大1千万円)の研究助成金を、約30年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

2010年度は、51件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て決定した6名に対し、助成を行いました。

地域貢献活動・災害支援

JXエネルギーグループでは、全国各地で様々な地域貢献活動を実施しています。これらの活動について、毎月2回、「CSR活動トピックス」としてホームページ上で紹介しています。

HP: <http://www.noel.jx-group.co.jp/company/csr/topics/index.html>

JX日鉱日石エネルギーは、大規模災害による被災地の支援を実施しています。

2010年度は、7月に口蹄疫による被害を受けた宮崎県・鹿児島県に対し、義援金を拠出したほか、11月に奄美地方大雨による被害を受けた鹿児島県に対し、義援金を拠出しました。

また、東日本大震災の被災者支援のために、2011年3月、JXグループとして、日本赤十字社を通じて3億円の義援金を寄贈しました。

ボランティア活動支援

JX日鉱日石エネルギーでは、ボランティア休暇制度を導入し、従業員のボランティア活動を支援しています。2010年度(7月～3月)のボランティア休暇取得実績は、延べ24名・28日となりました。

“T”の活動実績(2010年度)

Trustworthy products / services 信頼の商品・サービス

わたしたちは、信頼され、必要とされる企業であり続けるために、商品・サービスの品質向上に常に取り組み、社会の期待に応えていきます。

JX日鉱日石エネルギーでは、お客様に商品・サービスをご提供するにあたり、品質方針を定め、地球環境や安全性に配慮し、製造から物流・販売にいたる各職場において品質保証に取り組んでいます。

なお、当社各製油所・製造所においては、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しています。

販売現場での取り組み

お客様に商品をお届けするSS現場においては、SS運営者と協力しながら、商品の品質管理、接客等各種サービスの品質向上に取り組んでいます。

接客力の向上については、研修プログラムの実施、覆面チェック「ミステリーショッパー調査」等、積極的な取り組みを行っています。

2010年度は、全国のSS 4,571店舗を対象にミステリーショッパー調査を実施しました。その中で、2,360店舗(51.6%)が最高のS-Aランクと評価されました。

ENEOSお客様センターの活動

JX日鉱日石エネルギーにいただく貴重なお客様の声を、ENEOSお客様センターで受け付けています。当センターでは、「お問い合わせ」に対しては分かりやすく丁寧な説明を、「苦情」に対しては誠実かつ的確な対応を心掛けています。

2010年度(2010年7月～2011年3月)は、お客様からENEOSお客様センターに約84,000件の声をお寄せいただき、ENEOSカードの制度等についてお答えしました。

品質月間の取り組み

JX日鉱日石エネルギーでは、「全社的に品質保証・品質管理にかかわる意識の高揚を図る」ことを目的に、毎年11月を品質月間と定め、グループ関係会社および協力会社とともに、品質向上に向けたさまざまな活動を展開しています。

2010年度は、「ベストプラクティスの実践 ～一人ひとりの知恵と経験と力～」をテーマに、「「EARTH」を胸に みんなで築こう新生ENEOS品質」のスローガンのもと、各職場にて講演会の開催、日常業務の再点検、緊急時・異常時対応訓練等の活動を行いました。

欧州REACH規制への対応

2007年6月、欧州において新たな化学物質規制であるREACH規制※が発効されました。

※Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals

この規制は、欧州域内で年間1t以上製造または輸入されるほぼ全ての化学物質について、事業者が安全性評価データの登録を義務付けるものです。

JX日鉱日石エネルギーでは、石油連盟、石油化学工業協会などの関係団体と連携を取りつつ、社内に部門横断的な連絡会を発足させ、REACHの理解促進、関連情報や対応ノウハウの共有化などを推進しています。

欧州域内へ年間1,000t以上輸出する可能性のある化学物質については、2010年11月までに本登録を完了しました。現在は、1,000t未満の化学物質について、本登録に向けた準備を行っています。

“H”の活動実績(2010年度)

Harmony with the environment 地球環境との調和

わたしたちは、常に環境への影響に配慮し、あらゆる事業活動において、地球環境との調和を図っていきます。

関連するGCの原則

原則7: 環境問題の予防的アプローチ

原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ

原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及

環境方針と中期環境経営計画

JX日鉱日石エネルギーは、JXエネルギーグループ環境方針に基づき、2010年度から2012年度までの中期環境経営計画を策定しました。

中期環境経営計画を着実に実行するため、JXエネルギーグループEMS(環境マネジメント)体制を構築し、グループ一体となった環境マネジメントを推進しています。

地球温暖化防止対策の推進

精製段階における取り組み

JXエネルギーグループのCO₂排出量の約8割は精製段階で生じます。このため精製段階でのエネルギー消費効率の向上を最重要課題ととらえ、「2012年度の精製段階のエネルギー消費原単位2009年度比、3%削減」を目標に掲げ、最先端の技術の開発・導入や生産工程の改善、放熱ロスの削減など、さまざまな省エネ活動に取り組んでいます。

2010年度のエネルギー消費原単位は2009年度比1.6%(8.99→8.85)削減となりました。

これはCO₂排出量で39万トン相当の削減効果となります。

物流段階における取り組み

JXエネルギーグループは、物流段階において、改正省エネ法に基づき中長期にわたるエネルギー削減計画を策定(目標▲1%/年)し、実践しています。具体的には輸送ルート最適化、油槽所の集約、タンクローリーやタンカーの大型化などの物流効率化に加えて、アイドリング・ストップの徹底など、燃料消費量の削減に努めています。

2010年度、国内輸送における燃料消費に伴うCO₂排出量は、426千トンで、2009年度比1.2%の削減となりました。

生物多様性保全策の推進

JXエネルギーグループは、2010年11月、「JXエネルギーグループ生物多様性ガイドライン」を制定しました。「当社グループの事業活動が地球の生物多様性と大きく関わっていることを認識し、事業活動のあらゆる分野で生物多様性に配慮した取り組みを推進する」との基本方針のもと、事業活動による生物多様性への影響の把握・分析、および事業活動の改善に努めるとともに、自然保護、環境教育等、生物多様性保全に寄与する社会貢献活動を実施しています。2010年度は、全国9カ所で16回の自然保護活動を実施し、社員・家族ら延べ1,285名が参加しました。

継続的な環境負荷低減

JXエネルギーグループは、廃棄物の削減や、土壌・大気・水質などの環境負荷の低減に取り組んでいます。SS、油槽所等、所有する物件について、適切な土壌調査・対策を計画的に実施しています。2010年度は、370件のSSおよび8件の油槽所について調査を実施しました。ベンゼン・鉛等土壌汚染対策法に定める基準を上回る特定有害物質が検出されました9件の土地については、自治体等への申請・届出を行うとともに、行政の指導のもと浄化作業を実施しています。

水島製油所における大気汚染防止法に基づく定期検査の未実施について

2011年2月、当社水島製油所およびグループ会社である和歌山石油精製株式会社海南工場において、大気汚染防止法に基づくばいじん濃度測定が一部施設において未実施であることが発覚しました。

この事態を受け当社は、国内のグループ製造拠点の全て(16事業所)において、ばいじん濃度測定のみならず、大気汚染防止法に基づく他の測定項目(SO_x、NO_x)も含めたばい煙測定に関する総点検を行いました。その結果、水島製油所および和歌山石油精製株式会社海南工場における2件以外に、大気汚染防止法上問題となるものはありませんでした。

今後は、再発防止に向け、今般の法令違反の内容を盛り込んだ社員向け環境法令教育、各事業所の公害防止管理者による環境測定に関する年1回の監査、さらに各事業所の監査についての本社による年1回の監査を行うこととし、環境管理体制を更に強化するとともに法令遵守を徹底してまいります。

環境配慮商品・サービスの提供と開発

モーターオイル

JX日鉱日石エネルギーは、2010年11月、「ENEOSプレミアムモーターオイル SUSTINA(サスティナ)」の販売を開始しました。「SUSTINA」は、当社が開発した高性能化学合成ベースオイル「WBASE(ダブルベース)」と、当社独自の添加剤技術「ZP(ジンクピー)テクノロジー」により開発した高性能100%化学合成油です。

現在市場で販売されている省燃費エンジンオイルと比較して、「省燃費性能 最大2%向上」、「エンジン清浄性能持続力 2倍」、「省燃費性能持続力 2倍」の性能※を持ち、2010年10月より運用が開始となったエンジンオイルの国際規格の最高グレード(API:SN、ILSAC:GF-5)を取得しています。

※比較対象はAPI:SM、ILSAC:GF-4の同一粘度グレードの省燃費オイル。

実際の使用状況や粘度グレードにより性能が異なることがあります。

バイオガソリン

JX日鉱日石エネルギーは、2009年6月より、植物由来のバイオエタノールを原料としたETBE(エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル)を配合した「バイオガソリン」を販売しています。2010年9月に九州地区で、2011年1月には大阪府でそれぞれバイオガソリンの販売を開始、茨城県・千葉県においても取扱SSを拡大しました。2011年3月末のバイオガソリン取扱SSは全国で約2,000カ所となっています。

京都メカニズムの活用

JX日鉱日石エネルギーと三菱商事(株)がロシア連邦石油企業大手のガスプロムネフチ社と共同で推進しているイエティプーロフスコエ油田随伴ガス回収事業が、2010年7月、ロシア政府初のJIPプロジェクトとして認定されました。JIPプロジェクトとは、京都議定書に定められている温室効果ガス削減の手法のひとつで、先進国同士が協力していずれかの国内で温暖化ガス削減事業を実施し、そこで生じた排出削減量に基づき、事業を実施している国より排出権が発行されるものです。

本プロジェクトは、ガスプロムネフチ社がロシア連邦ヤマルネネツ自治区に保有するイエティプーロフスコエ油田において、従来は利用されずに燃焼処理していた随伴ガスを、新設したパイプラインにより回収し、ロシア国内でガス燃料等として有効活用するものです。これにより、パイプラインの運転を開始した2009年8月から2012年12月末までの期間、プロジェクトに対しCO₂換算で約310万トンの排出権が発行される見込みです。2011年1月には、2009年8月から2009年12月末までの期間におけるCO₂排出削減量29万トンに対し、排出権が発行されました。これは、ロシア政府初となります。

【データ】

JXエネルギーグループ中期環境経営計画(2010年度～2012年度)

重点テーマ	具体策	取組内容
I. 地球温暖化防止・生物多様性保全策の推進	(1)環境にやさしい商品・サービスの提供と開発	環境配慮型の燃料油・潤滑油・石油化学品の開発・拡販を推進する。 次世代技術(燃料電池・太陽電池・蓄電池・水素利用技術等)の開発・拡販を推進する。
	(2)サプライチェーン全体としてのCO ₂ 削減	エネルギー消費原単位の3%削減(2009年度比)を目指す。
	(3)環境貢献活動の推進	地球温暖化防止・生物多様性保全に配慮した「自然保護」、「環境教育」、「環境意識啓発」を推進する。
	(4)京都メカニズムの活用	京都メカニズムを利用した地球温暖化防止対策を推進する。
II. 継続的な環境負荷低減	(1)土壌汚染の調査および対策の推進	稼働中物件:外部漏洩を防止するための調査・対策を継続する。 廃止物件:計画的な調査・対策を継続する。
		浄化技術の開発 低コスト工法を開発する。
	(2)VOC削減対策	VOC(揮発性有機化合物)削減を継続する。
	(3)廃棄物削減対策	ゼロエミッション・プラス(最終処分率0.5%未満)を達成する。
(4)オフィスにおける環境負荷低減	オフィス部門の紙・ごみ・電気を削減する。	
	グリーン購入を推進する。	
	取引先のグリーン化を推進する。	
III. 環境マネジメント体制の充実	(1)サプライチェーンにおける環境マネジメント体制(EMS)の拡大	特定関係会社・連結子会社におけるISO14001取得またはグループ基準EMSを推進する。
		特約店に対しEMS体制の構築を支援する。



エネルギー・資源・素材の^{みらい}Xを。
JX日鉱日石エネルギー

2010年4月～2011年3月までのデータをもとに報告しています。
(一部2010年3月以前や、2011年度以降の活動や予定も含まれます)